

市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告

- 1 開催日時 平成23年（2011年）11月19日（土）
午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 金目公民館 2階集会室
- 3 テーマ 防災対策について
- 4 出席者 参加者14名 傍聴者4名

5 市長挨拶

皆様、本日は雨の中お集まりいただき誠にありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。

4月の選挙で当選をさせていただき、5月から市長として市政に携わらせていただいています。行政を進めるうえで、直接市民の皆様から御意見を聞くことがとても大切であると考えています。地域ごとに抱えている課題について、直接市民の皆様から御意見を聞かせていただき、行政はそれを課題とし、対策を行い、どのように市政に反映させるかということがとても大切であると考え、市民の皆様と直接対話をする機会として、このほっとミーティングを開催させていただくことになりました。11月に2回、年が明けて2月に2回開催をする予定です。

本日、金目公民館にて2回目の開催であります。私は岡崎公民館で公民館主事を5年間務めさせていただきました。当時、岡崎地区の隣の地区ということで、金目地区とは大変多くの交流を持たせていただきました。金目地区は昔から人材も豊富で素晴らしい地域であります。本日金目地区にて対話集会を開催できることを大変うれしく思っています。

本日のテーマは防災についてです。3月11日、大きな被害をもたらした東

日本大震災がありました。市長就任後、まず市民の皆様の安心と安全のための施策をうたせていただきたいと思いますと考え、6月、9月、そしてこれから始まる12月の議会の中でも、防災対策の予算化について説明をし、お認めをいただいているところです。私も市職員の時、最後に勤めた部署が防災課であり、防災の実務にも携わったこともあります。東日本大震災が起きたことを受け、もう一度市民の皆様に防災に対する意識を高めていただきたいと思いますとともに、行政は市民の皆様と一緒に市民の皆様の安心安全について考え、施策を行うことが必要です。そこで、本日は皆様の防災についての屈託のない意見を聞かせていただき対話を行いたいと思います。よろしくお願いします。

6 対話集会で取り上げられた防災対策の内容

- ① 避難所について（避難所の指定、避難所・経路の仕組み、避難所の飲料水）
- ② 川の防災対策について（金目川の整備、上流域との連携、川津波、水防団）
- ③ 災害時の情報伝達方法について（防災行政無線）
- ④ 防災対策における人の力について（地域力、女性のパワー）
- ⑤ ハザードマップについて
- ⑥ 放射能汚染について
- ⑦ 山の亀裂について
- ⑧ 防災訓練について
- ⑨ 防災対策における自然との調和について

7 対話集会の具体的な内容

① 避難所について

参加者意見・質問
金目川から南側の地域について、以前は高台にある五領ケ台高校が避難所でした。現在の避難所は低地にあり、避難するためには金目川を渡らなければなりません。台風、局地的豪雨等の災害時に水害の危険がある川を渡り、低地にある避難所に避難することは非常に心配です。五領ケ台高校の跡地を取得し、再度避難所にすることはできませんか。
市長意見・回答
五領ケ台高校の跡地について、避難所が変わった経緯について説明しますと、神奈川県で高校の統合があり、五領ケ台高校は神田高校との統合により湘風高校となりました。統合に伴い、神奈川県は五領ケ台高校の場所について、

学校施設を廃止し、処分を行うことを決めました。五領ケ台高校をそのまま避難所に指定することはできないため、平塚市は五領ケ台高校を避難所に指定していた地域に住む住民の皆様の避難を受け入れる新しい避難所について考えました。学校施設を中心とした避難所が55か所あり、地域から近く、食料等の備蓄が十分に確保できる現在の学校を避難所として指定をさせていただきました。

五領ケ台高校の跡地を取得して再度避難所とすることについては、神奈川県から五領ケ台高校の処分が決まった時に建物と敷地を買い取って使ってもらえないかという話がありました。神奈川県も財産の処分については、売却を行い財政に資するという方針を固めているため、無償で平塚市に譲るわけにはいきませんでした。五領ケ台高校の跡地を購入すると、金額は何億円単位になります。平塚市が購入をし、公園、建物等の再整備をして市民の皆様にご供することは財政運営的な面から難しいと考えます。

御意見のあった台風、局地的豪雨等の災害時に、高台ではなく水害の危険がある川に向かって避難するということについて、指定の避難所とは災害時に一目散に急いでそこへ避難してくださいというものではありません。地域にはまず安全を確保するため、自治会で定めている一次避難所があります。災害時の避難方法は地域の一時避難所である高台、公園等に一旦避難をし、その後地域の皆様で学校施設等の避難所に避難していただく方法をとっていただいています。

今、早急に五領ケ台高校から代わった学校施設を避難所から外すことはできませんが、もし他に避難所として災害対応ができる施設、場所があればもう一度避難所の指定について考える必要はあり、また、地域の皆様が住んでいる場所と避難所の方向、位置関係についても課題として、もう一度考えていかなければならないことであると考えます。

参加者意見・質問

災害時に避難所に避難する時、避難所の周りや避難経路で危険が発生すると思います。その対応について聞きたい。

市長意見・回答

今までは地域の災害対応について考える組織として拠点基地がありました。現在、その役割は避難所が中心に行う仕組みになっています。

現在担当の副市長と話を進めています。それぞれの地域の危険な場所、避難経路におけるブロックや川などの障害を再調査し、相対的な地域の安全度、

危険度を把握したうえで、地域の皆様の安全を守るために、地域ごとの防災組織が機能し地域毎に災害対応をできるような仕組みを再度考える必要があると考えます。

参加者意見・質問

災害時、避難所の飲料水の対応について聞きたい。

市長意見・回答

災害時の飲料水について、平塚市は吉沢の浄水場に水をくみ上げます。吉沢の浄水場の水量は平塚市の全市民が生活する約1カ月の水量をまかなえます。災害時には水をくみ上げ、各避難所に配給します。それぞれの組織に給水班があり、近くに配置してある機械でくみ上げの作業を行います。

また、皆さんにぜひ行っていただきたいことがあります。吉沢の浄水場は高い所にあります。災害が発生した時、お風呂でも何でもいいので水をためることをしていただきたいです。吉沢の浄水場は高い所にあるため、落差により低い所へ水が流れ、蛇口をひねると一定量の水をためることができます。これは実験済みですので、ぜひ皆様には行っていただきたいと考えます。

さらに、飲料水については各小中学校のプールの水をろ過して地域の皆様に提供するというも行います。水の量、対応については安心ということではありませんが、行政としての仕組みは構築されているということをご理解いただければありがたいです。

食料、飲料水はとても大切です。現在、地域防災計画の見直しをしていますが、見直しの中でそれぞれの地域でどのくらいの食料、飲料水が必要なのか再度計画をつくっていきたいと考えます。

② 川の防災対策について

参加者意見・質問

金目川は台風、局地的豪雨等の災害時に氾濫しやすいため非常に危険です。金目川の防災対策と金目川の整備について聞きたい。

市長意見・回答

金目川については、以前より天井川と呼ばれ、水害の危険がある暴れ川であるということは十分に認識をしています。

毎年6月から11月にかけて神奈川県にそれぞれの自治会の代表者とともに要望活動に出向いています。特に金目川については、河床が高いことで水量の増加による氾濫の可能性が高いということを管轄している神奈川県には認

識を持ち続けてもらう必要があります。早急な対応が必要であるということで要望を続け、この働きかけは懸命に続けていく必要があると考えます。

また、金目川には水利用の問題があります。昔から田んぼに水を引くためどのような方法を行うかという問題があります。一昨年、昨年にかけて神奈川県に金目川の水の流れ、田んぼへの水の引き方について調査をしてもらい、整備の参考にいただいています。

金目川の整備について、現在の整備は河床を削り、護岸をしっかりと造り、流れをスムーズにさせるために行っています。どのくらい河床を削って、どのように護岸を整備するかについては、神奈川県に確認をします。**(※) 確認結果は、「9 集会後の確認結果」に記載してあります。**

参加者意見・質問

平塚市は下流地域であるため、上流地域で雨が降ると川の水量が増えて危険になります。上流地域との連携について聞きたい。

市長意見・回答

下流地域のまちの宿命ですが、自分たちの地域で雨が降ってなくても上流地域で雨が降った場合に川の下流の水量は増えてしまいます。以前、秦野市で雨が大量に降り、金目川が氾濫し、はしご車で取り残された人の救助を行うという事がありました。このような危険に対応するため、現在は秦野市の消防との連携が構築されており、上流地域との情報提供の連携ができています。今後とも継続して連携を行っていきたいと考えています。

なお、先日の台風の時にも須賀新田の地域に避難勧告を出しました。夕方に雨が上がり、星が見えるような空模様でした。しかし、上流地域で大量に雨が降ったためダムが放流が行われ、神川橋にて危険水域に達しました。そこで、下流地域である須賀新田に避難勧告を出しました。これは上流地域からの情報により行われたものですので、今後も上流で何トンの水を放流したか、どのくらいの雨が降ったか等の情報提供の連携を密に図り、下流地域の皆様の安心安全を考えていきます。

参加者意見・質問

東日本大震災は津波の被害が甚大でした。金目地区は海からは離れていますが、川を遡上する津波の被害が心配です。川津波への防災対策について聞きたい。

市長意見・回答

最近、神奈川県からの津波浸水予測図が発表になりました。一番大きい地震

は元禄型関東地震と神縄・国府津 - 松田断層地震が同時に起こった場合で、津波は西側から押し寄せてくる予測です。鎌倉市で約14メートル、藤沢市で約10メートル、小田原市で約8.8メートルの津波が起こる可能性があるとのことでした。平塚市については明確な数字が発表されていませんが、近々担当者が説明を受けることになっています。

浸水予測図を確認した担当者のお話では、その津波が発生した場合、平塚市で一番浸水の被害を受ける場所は津波が相模川を溯った場合、茅ヶ崎側の須賀新田地区で大きな津波、浸水の被害がある可能性があるということでした。金目川については、津波が川を溯った場合、金目川を溯る入口の両側に若干浸水の可能性があることを確認しました。その他の地域については国道134号線の高さが8メートルあり、国道を超えての津波の浸水予測はありませんでした。つまり、一番大きな津波が発生する可能性がある地震が起きた場合でも国道134号線を超えての津波浸水予測はされないというのが神奈川県での発表でありました。

しかし、想定外の事態を考えなければなりません。もし、10メートルの津波が発生し、国道を超えた場合の津波の浸水について、津波浸水モデルシミュレーションというものを東海大学で作成し、出来上がりつつあります。コンピュータグラフィックスにて作成をした映像を収めたDVDです。5メートル、10メートルの津波が発生し、平塚市に浸水する様子を上から見た映像で確認することができます。年明け頃に学校、公民館、自治会等にお配りをして皆様にお示しをできると考えます。皆様には津波の襲ってくる様子を見ていただくとともに、津波が発生した場合、どのようにして避難をするべきかを考えていただく自主防災のために活用していただきたいと考えます。

また、津波避難ビルの対応についても、東海道線以南の地域にとどまらず、各川を津波が溯った時の地域の皆様の避難場所についても、ぜひ今後取り組んでいきたいと考えます。

参加者意見・質問

水防団の有り様、仕事、必要性について聞きたい。

市長意見・回答

水防団の有り様、必要性については課題であります。現在、平塚市が水防団員の委嘱をしています。水防団が災害時に直接土のうを積んだりすることはありませんが、相模川、金目川、内陸河川の水の見守りをしていただいています。消防の中にその機能を持たせるべきであるという御意見もあり、水防団の必要

性についても様々な御意見はあります。しかし、私は平塚市の河川の水の見守りをしていただき、市民の皆様の安心安全の一端を担っていただいている水防団の皆様に対して、本当にありがたいと思っています。

③ 災害時の情報伝達方法について

参加者意見・質問

防災行政無線で防災以外の情報も放送されるのはなぜですか。

市長意見・回答

平塚市では防災行政無線としているため防災無線に特化していません。迷子の情報や、夏には光化学スモッグの情報などの防犯、環境に関することも放送されます。これは防災行政無線ということで行政に関することも放送の対象となるからです。

参加者意見・質問

防災行政無線が聞こえにくいのですが、対策について聞きたい。

市長意見・回答

議員の頃から度々皆様より無線が聞こえにくい、聞こえないという御意見はいただいていた。その都度、防災には調査をしてもらうよう依頼をいたしました。御意見、御要望が多い地域については、風向きや角度等の調査を行い、調整を行っていますが解決しきれない地域があることは確かです。

そこで、8月1日からテレフォンガイドを導入しています。テレフォンガイドに問い合わせをしていただくと防災行政無線で放送した内容を再度聞くことができます。電話番号は0180-99-4956です。PHS、ひかり電話、一部のIP電話については、0463-22-4956です。さらに、男性職員の声は聞こえにくいとの御意見があるため、市役所の業務時間内については女性職員による放送を行っています。他には、8月1日からツイッターの制度も導入し、地域の防災訓練や雨の日の対応等の情報も発信をしています。NTTドコモの機種では地域で災害が起きた場合には情報が飛び込んでくるエリアメールの制度も導入しています。ぜひ、御活用いただくようお願いします。

④ 防災対策における人の力について

参加者意見・質問

災害時、大切なのは地域の住民同士で助け合い、協力して避難をすることだと思います。地域の防災対策について聞きたい。

市長意見・回答

地域のまとまりがあるということが防災に対して大変必要になります。私は普段から絆が大切であると言わせていただいております、人の絆、まとまり、つながりへの思いが強い人間であります。現在は若い人も含めた隣近所のがつながりが求めにくいですが、地域の皆様がお互いを知っているかどうかは防災においてとても重要であります。平塚市では自治会が234あり、そのすべてが自主防災組織を持っています。これは全国に誇れるものです。平塚市行政はその自主防災組織に機材等の提供を行い、今後も自治会、自主防災組織への支援を行っていきたくと考えます。防災対策を含めて、これからも絆、まとまり、つながりを深めるための応援をしていきます。

防災対策における地域のつながりという点で高齢者、障害のある方のための災害時要援護者支援プランというものがあります。現在6千人弱の登録がありますが、まだまだ不十分です。登録が進まない理由として、登録には支援者が一人必要で支援者を決められない方がいること、障がい等のプライバシーの点から登録に前向きでない方がいることが考えられます。しかし、避難時に助けが必要な方はぜひ手をあげていただきたい、地域の皆様に知っていただかないと助けようがありません。これからも災害時要援護者支援プランは広めていきたいと考えますので、今後、当然行政からも高齢者、障害のある方には登録を促すようお声掛けをしていきます。それとともにぜひ地域の皆様にもこの災害時要援護者支援プランが広まるよう御協力をお願いします。

災害に対応するために、自分の身は自分で守る自助、地域の安全は地域で守る共助、地域を守るために公が支える公助が大切です。三者がバランスよく機能することが災害に強いまちをつくれます。

参加者意見・質問

現代の女性のパワーには目を見張るものがあります。防災対策においても女性のパワーがとても役に立つと思います。女性のパワーを活かした防災対策について聞きたい。

市長意見・回答

女性防災リーダー「平塚パワーズ」という組織があります。約15年前、男

性が勤めに出ている時に災害が起きたら地域は女性が守るべきである、という御意見から手をあげていただいた方達がありました。その方達に医療、救急、炊き出し等の講習を一年間行い、卒業された方の中からまとまっていたいただき結成されたのがパワーズです。以前は行政と一緒に導いてきた団体ですが、現在は立派に独り立ちをし、活動を行っています。例えば、先日石巻市、仙台市に行き講演を行ってきました。段ボールでできる簡単なトイレの作り方、使い方の講演を行い、これは様々な新聞でも取り上げられるほど好評でした。平塚市の女性が地域を守る防災のためにパワーを出していただいている大切な組織であると考えます。私も平塚市の女性が活躍をしていることを全国に広めていきたいと考えます。地域の皆様にもパワーズを上手に使っていただき、地域の防災意識の活性化を図っていただきたいです。女性防災リーダー、パワーズは非常に頑張っていると思います。ぜひ、パワーズへの皆様の応援と御活用をお願いします。

⑤ ハザードマップについて

参加者意見・質問

ハザードマップを作成中であると聞きましたが、どのような内容であるか、現在の進捗状況について聞きたい。

市長意見・回答

ハザードマップについて、検討を重ねた結果、防災マップという形で集約をしたいと考えます。今までの地域防災計画では、どれだけの揺れがあつて、どれだけの家屋が倒れ、どれだけの死者、負傷者が出て、どれだけの水、電気が不足する、ということが中心の計画でした。しかし、現在は津波への対応を計画しなくてはなりません。防災マップにどのように津波対策を盛り込むかということを考えています。神奈川県津波浸水予測図が発表されましたが、県民の皆様にお示しをして意見を聞くという行政のシステム、パブリックコメントがあります。これを経ないと公式には発表できないという意見もあり、御意見、御指示を受けてから正式なハザードマップが出されると思います。それと協調をし、地域ごとに揺れの大きさを示し、どの地域で液状化が起こりやすいのかを示し、現在288か所中200か所を目標にお願いを続け、現在16か所ある津波避難ビルを示し、55か所の避難所、医師会と協定を結び災害時に医者がすぐに来てくれる13か所の臨時救護所等様々な情報を示した防災マップを作成しています。出来るだけ早く皆様にお示しをしたいと考えます。

⑥ 放射能汚染について

参加者意見・質問

特に、小さい子供がいる家庭では放射能汚染のことが心配です。放射能汚染対策について聞きたい。

市長意見・回答

放射能汚染について、小さいお子様をお持ちの方が一番心配をされていると思います。平塚市の対応としては、福島的第一原発の事故があった後に市内の保育園、幼稚園、学校について、放射線量の調査をしました。検出された数値は基準値を大きく下回るものでありました。夏にはプールの水を東海大学にて検査をしてもらいましたが汚染は確認されませんでした。

しかし、ここで雨等の影響で放射能が溜まり発生するホットスポットの問題が生じてきました。緊急に対策会議を開き、放射線量を再度測ることとなりました。計測した2か所から少し高い数値が検出されましたが、すぐに表面を削り、地中に埋め戻しをすることで数値を下げることができました。

今後も放射能汚染については、平塚市内をメッシュに区切り、29施設、それぞれの地点での放射線量を測り、お示しをしたいと考えます。ホームページにて地区ごとの数値を発表していきますので御確認をしていただきたいと考えます。

⑦ 山の亀裂について

参加者意見・質問

3月11日の地震で山に大きく亀裂が入ったところがあります。持ち主は次に大きな地震があった時には崩れてしまいそうだと心配をしています。行政で行ってもらえる何か対策はありませんか。

市長意見・回答

神奈川県が指定をする急傾斜地、いわゆる崖地というものがあります。そこは公費を使い歯止めの工事を行うことができます。平塚市にも指定の場所があり、行政は注意喚起をしながら出来るところは歯止めをします。私有地内の崖についてはすぐに公費を使い対応をできるものではありませんが、例えば補助の対応になるようなものであれば御案内したいと考えます。情報をお知らせいただければ何かあった時に対応が早く行えるので、情報を防災等の担当にお知らせをしていただくことは大切であると考えます。

⑧ 防災訓練について

参加者意見・質問

消火器の使い方を指導するなど、市民への防災訓練は防災対策においてとても有効であると思います。平塚市の防災訓練について聞きたい。

市長意見・回答

消火器については、水消火器が3、4台あり実際にかけていただく訓練を実施しています。また、心臓麻痺を起こした方に対応するAEDの訓練、講習を行っており、講習取得者を増やし緊急の救急に対応できる人を増やすことを図っています。他には台所でお鍋から火が出た時の消火訓練等を実施しています。この秋から年末にかけて自主防災組織単位にて訓練を行っていきます。訓練は体験を盛り込んだもので、体で覚えていただけるようなものを実施しています。ぜひ消防の方に申し込みをしていただくようお願いします。

⑨ 防災対策における自然との調和について

参加者意見・質問

防災対策のための護岸の工事は大切ですが、自然を壊さないような防災対策が必要だと思います。防災対策における自然との調和について聞きたい。

市長意見・回答

私も農家の人間で子供の頃から相模川で遊んできた人間です。川、生物、自然の大切さはとても重要なことだと考えます。河川改修においても、その点について平塚市から神奈川県に訴えていきたいです。最近神奈川県もすべてをコンクリートで固めるような考えはなく、出来るだけ自然を守りながらの改修工事を行っています。海岸についても、平塚の海を泳げるように改修しましたが、海底の砂の段差、砂の堆積、新港では砂がさらわれてしまう等が発生しているので、常に担当部署では注視を行っていきたいと考えます。平塚市の海で海がめが産卵をしたことも確認されました。このような平塚市の自然を守ることもとても大切です。防災対策に併せて、今後も自然を守るという施策は行っていきたいと考えます。

8 市長によるまとめ

10月19日、神奈川新聞の社説にて、平塚市の津波対策について取り上げていただきました。全庁あげての早急な津波対策を、という内容で応援と指摘を受けたところであります。津波対策、防災対策においては、まず市民の皆様の命を守る体制、状況を作ることがとても大切です。市長に就任をして、防災対策の部門には人員が足りないと感じ、増員についても対応をしました。津波避難ビル等の対策についても着々と進めています。しかし、災害対策の業務量の多さからもすぐに目に見える結果として表れてきていない状況ではあります。そして、着々と進んでいる防災対策の進捗状況が市民の皆様に見えていないところがあると思いましたので、今後はぜひ進捗状況の更なるお示しをしていきたいと考えます。私も職員と一体となり防災対策に取り組んでまいります。今後も市民の皆様命を守る対策を進めていくことをお約束します。

司会の横田さんとも話をしましたが、金目地区は自由民権運動からはじまり、地域の意識が高く、教育力も高い素晴らしい所であると感じています。地域の皆様との絆、人と人とのつながりをさらに深めていただける地域であると考えます。地域の安全は地域で守り、行政が地域の皆様の安心安全のためにできることを考え実行し、ぜひ皆様と災害に強い平塚市をつくっていききたいと考えます。

本日は皆様大変貴重な御意見、御提案をいただきました。感謝を申し上げます。まして本日の対話集会を締めくくらせていただきます。本当にありがとうございました。

9 集会後の確認結果

対話集会の中で神奈川県に確認をすることについて、次のとおり確認をしました。

質問 金目川の整備について、どのくらい河床を削って、どのように護岸を整備するか。

回答 現在、神奈川県では、金目川の唐ヶ原地区において、1時間あたり50ミリメートルの降雨に対応できるような計画に基づき、河川の改修事業に取り組んでいます。現在の河床は、水が常時流れているところが深く掘れて一番低くなっており、そのほかには、土砂が堆積して河床が高くなっているところもあります。計画の河床の高さは、現在の一番低いところからは1.7メートル程度高く、河床に土砂が堆積しているところについては、最大2.8メートル程度の掘削を行います。なお、こうした河床の掘削は、一連区間の堤防・護岸が整備できた段階で実施する予定です。

また、護岸はすでに工事が完了している箇所と同様に、コンクリート製のブロックで整備します。

この計画での改修工事が終わると、場所によって異なりますが、川幅が6～21メートル程度広がるとともに、堤防の高さが0.5～1.7メートル程度高くなりますので、川の流れは、降雨時にも、より安全なものになると考えています。

(神奈川県平塚土木事務所 工務部河川砂防第一課回答参照)

市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

参加者・傍聴者アンケート結果報告

回答数 17件（参加者 13件 傍聴者 4件）

参加者・傍聴者について

20代1名 30代1名 50代2名 60代5名 70歳以上7名

不明 1名

男性 11名 女性 5名 不明 1名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	9名	2名	11名
ポスターやチラシ	0名	1名	1名
町内会など地域から	0名	0名	0名
市ホームページ	1名（新聞等）	1名	2名
その他	3名	0名	3名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	6名	1名	7名
まあよかった	5名	2名	7名
どちらともいえない	0名	0名	0名
あまりよくなかった	2名	1名	3名
よくなかった	0名	0名	0名

質問3 質問2であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

回答 テーマをもっと絞るべきだった。
参加者と市長がもっと対話を行うべきだった。
発言の時間、機会が無かった。

質問4 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

回答

伝わった	6名
まあ伝わった	5名
どちらともいえない	0名
あまり伝わらなかった	2名
伝わらなかった	0名
回答なし	0名

質問5 質問4であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。
(参加者対象)

回答 対話の時間が短かったので、自分が語りたい内容の本質には至らなかった。

質問 6 対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

回答 大変参考になったため、知人、地域の方々に知らせたい。
時間を守れない人について、事務局、司会者が徹底をする必要がある。
広報等で対話集会を知りましたが、参加してよかったと思います。
対話の時間を長くしてほしい。
司会者の進行がよかったです。
市の施策が市民に伝わっていないと感じました。
市長が地域の住民と対面して話をすることが大事であると感じました。
落合市長、司会の横田さんの人柄がよく緊張がほぐれました。
とても密度の濃い時間を過ごすことができました。大満足です。

質問 7 今後の対話集会でのテーマについて、取り上げたいことはありますか。

回答 海岸浸食、ゴミ対策、公園の整備、川の護岸工事について、取り上げてほしい。
車道路と歩道について、取り上げてほしい。
交通不便地域について、取り上げてほしい。
市民の幸福度をあげる施策について、取り上げてほしい。
高齢化社会、認知症、孤独死について、取り上げてほしい。
農業対策について、取り上げてほしい。